

決算説明資料

2023年3月期 第1四半期

岩崎通信機株式会社 | 2022年8月9日

IWATSU

目次

IWATSU

- 1 2023年3月期 第1四半期実績
- 2 2023年3月期 通期業績予想
- 3 トピックス

1

2023年3月期 第1四半期実績

新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、経済活動の正常化に向けた動きが見られたものの、急激な円安の進行、原油・原材料価格の高騰や原材料調達難の影響により、売上収益は前期並みを確保したものの減益

(億円)

	2022年3月期 第1四半期 実績	2023年3月期 第1四半期 実績	前期比
売上収益	49.2	49.4	+0.2 (+0.4%)
営業利益	△3.5	△4.2	△0.7 (-)
経常利益	△3.1	△4.0	△0.9 (-)
親会社株主に帰属 する当期純利益	△2.6	△4.0	△1.4 (-)

売上収益

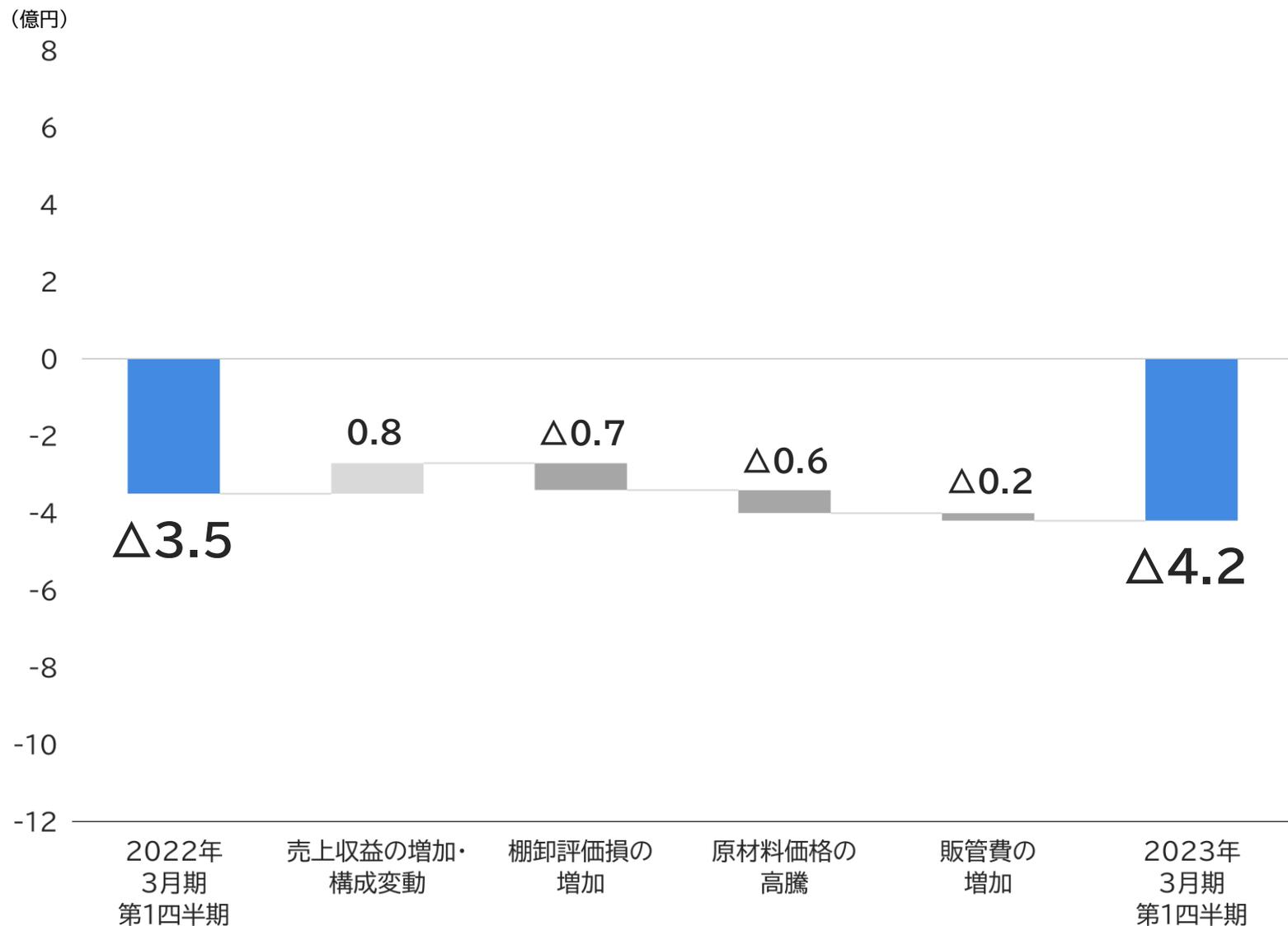
原材料調達難の影響により生産子会社の受託生産は減少したものの、主力のビジネスホンが増加したことにより、前期並みの売上収益を確保

営業利益

売上収益は前期並みを確保したものの、原材料価格の高騰や棚卸資産評価損の増加に伴う原価率の悪化、販売費及び一般管理費の増加により減益

当期純利益

前期において補助金収入0.3億円及び繰延税金負債の取り崩しに伴う法人税等調整額△0.2億円をそれぞれ計上したこと等により減益



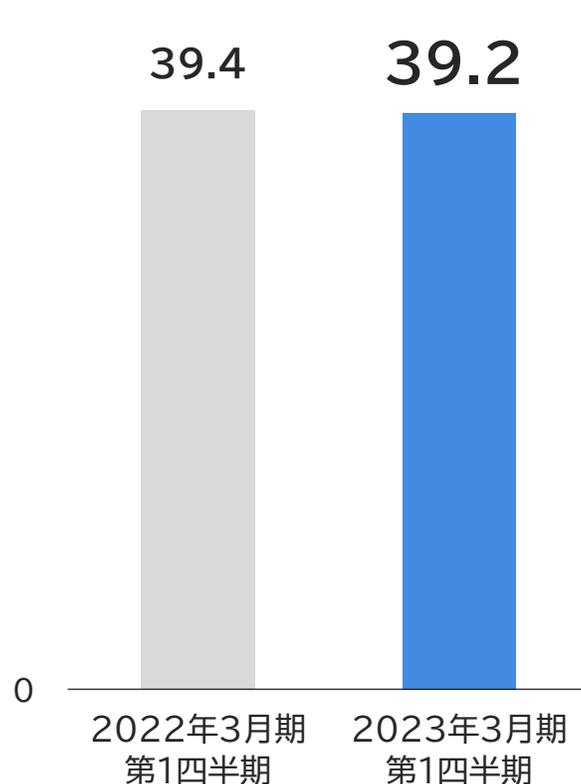
主な増減要因

- **売上収益の増加 +0.8億円**
売上収益の増加及び売上構成の変動により営業利益が増加
- **棚卸評価損の増加 △0.7億円**
製品製造に備えた原材料の先行手配に伴い棚卸資産評価損が増加し、売上原価が悪化
- **原材料価格の高騰 △0.6億円**
原材料価格の高騰に伴い売上原価が悪化
- **販管費の増加 △0.2億円**
中期経営計画「REBORN」に基づく、将来に向けた一過性の全社的な費用が増加

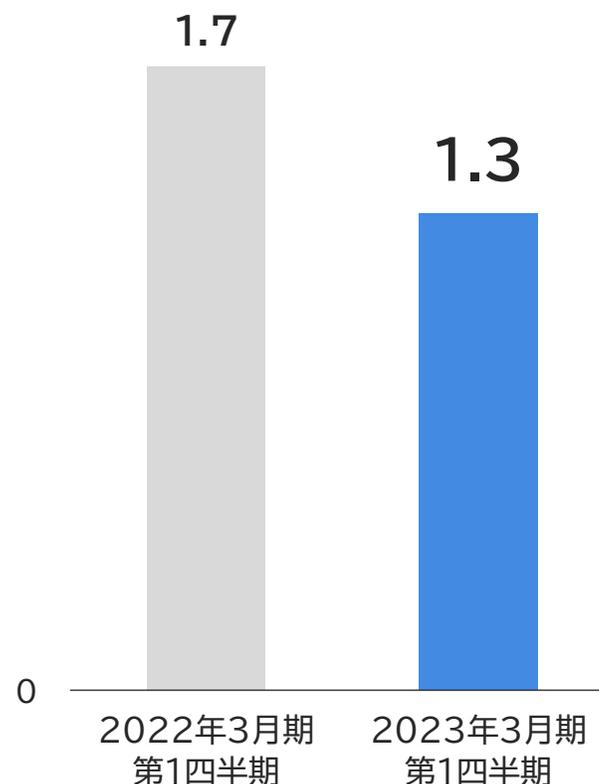
(億円)

		2022年3月期 第1四半期 実績	2023年3月期 第1四半期 実績	前期比(増減率)
情報通信	売上収益	39.4	39.2	△0.2 (△0.4%)
	セグメント損益	1.7	1.3	△0.4 (△21.9%)
印刷システム	売上収益	3.6	3.3	△0.3 (△9.2%)
	セグメント損益	△0.8	△0.6	+0.1 (-)
電子計測	売上収益	5.3	5.6	+0.4 (+6.7%)
	セグメント損益	△0.8	△0.7	+0.1 (-)
不動産	売上収益	1.0	1.3	+0.3 (+36.4%)
	セグメント損益	0.1	0.3	+0.2 (+349.1%)
調整額	売上収益	-	-	-
	セグメント損益	△3.7	△4.4	△0.7 (-)
合計	売上収益	49.2	49.4	+0.2 (+0.4%)
	営業利益	△3.5	△4.2	△0.7 (-)

● 売上収益

(億円)
50

● セグメント損益

(億円)
2

主な増減要因

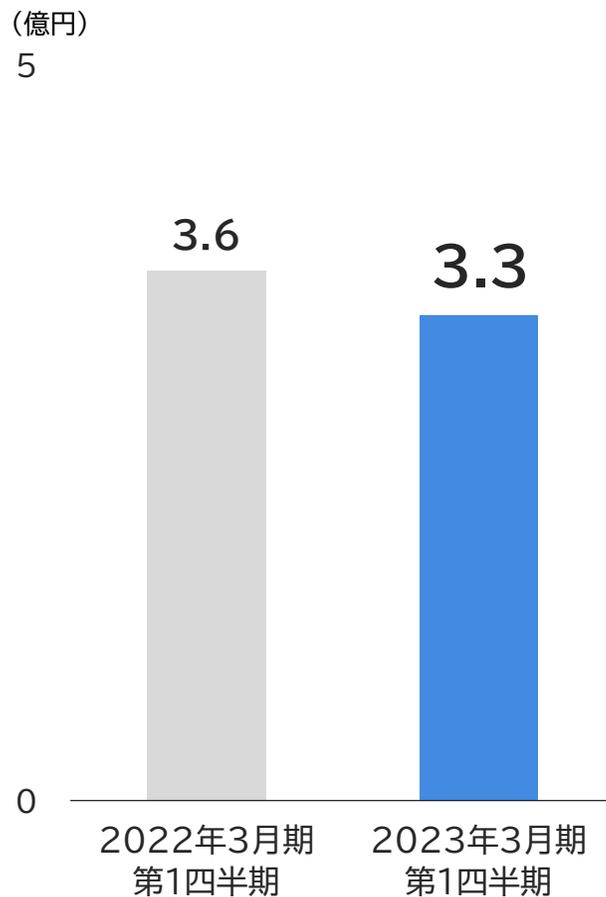
● 売上収益

主力のビジネスホンは増加したものの原材料調達難により生産子会社の受託生産が減少したため、売上収益39.2億円、前期比△0.2億円(△0.4%)の減収

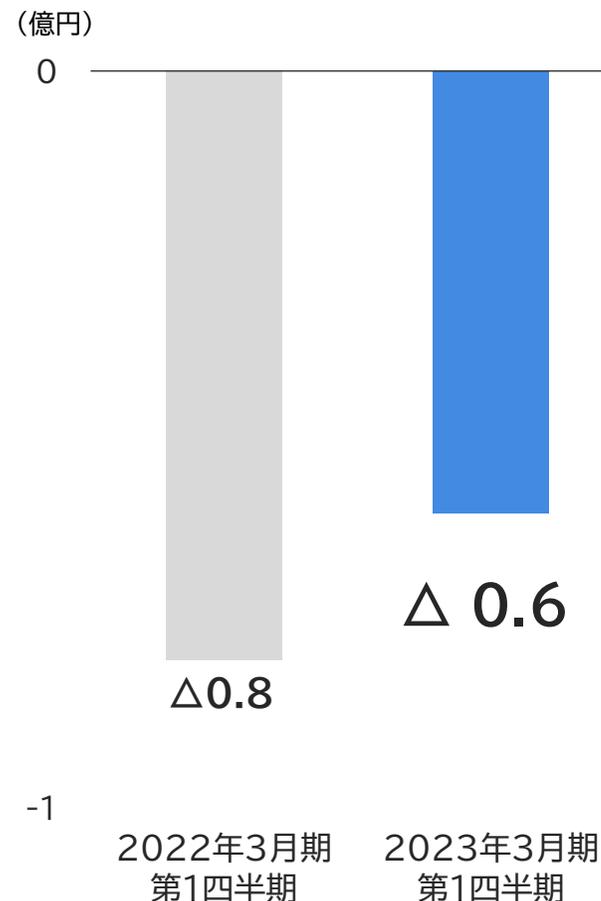
● セグメント損益 △0.4億円

売上構成の変動	+0.4
棚卸評価損の増加	△0.3
原材料価格の高騰	△0.6
販管費の減少	+0.1

● 売上収益



● セグメント損益

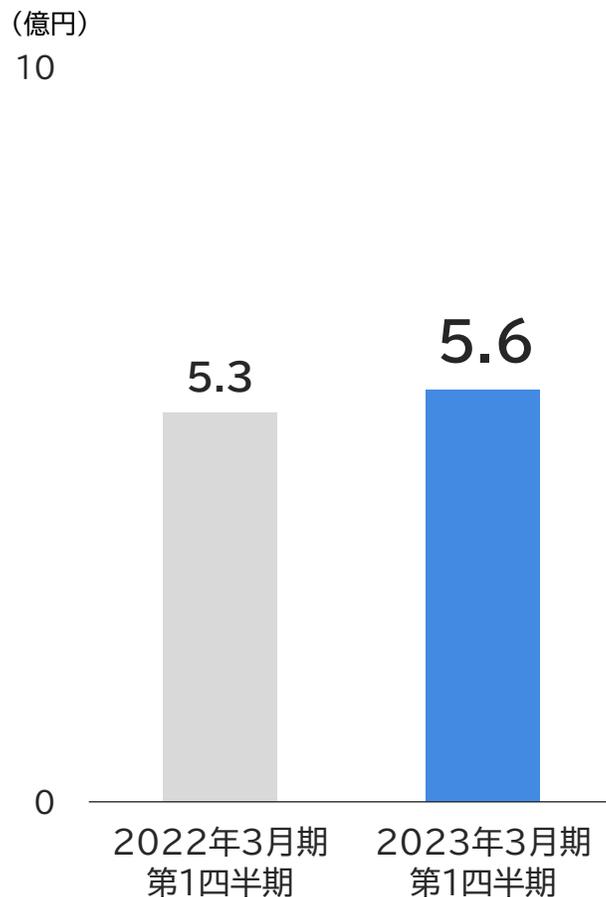


主な増減要因

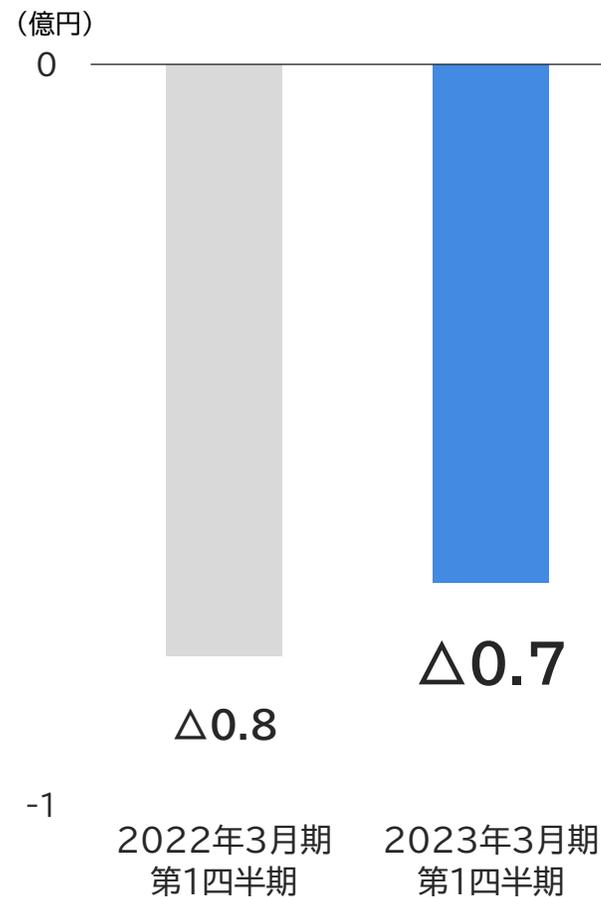
- **売上収益**
主に消耗品が前年の価格改定前の前倒し受注の反動により減少したため、売上収益3.3億円、前期比△0.3億円の減収
- **セグメント損益 +0.1億円**

売上収益の減少	△0.2
棚卸評価損の減少	+0.1
原材料価格の高騰	△0.0
販管費の減少	+0.3

● 売上収益



● セグメント損益



主な増減要因

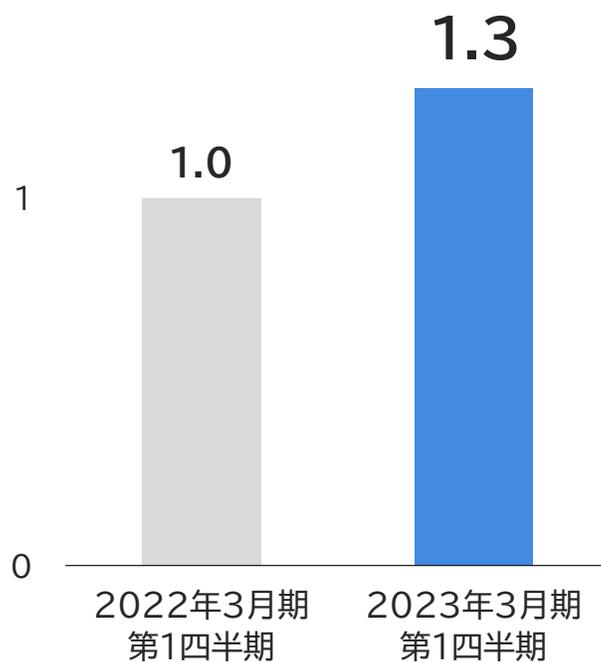
- **売上収益**
主に電子部品が増加したため、売上収益5.6億円、前期比+0.3億円(+6.7%)の増収
- **セグメント損益 +0.1億円**

売上収益の増加	+0.2
棚卸評価損の増加	Δ0.4
原材料価格の高騰	Δ0.0
販管費の減少	+0.2

● 売上収益

(億円)

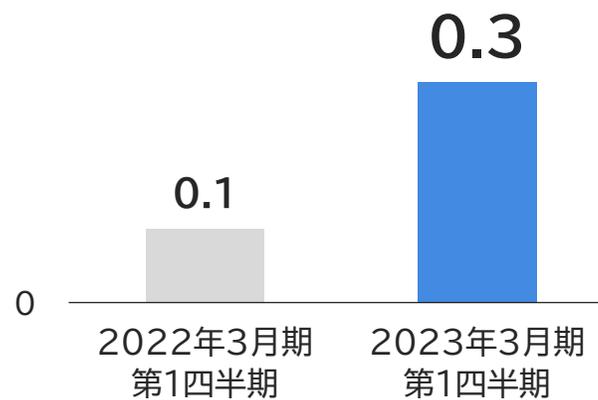
2



● セグメント損益

(億円)

1



主な増減要因

- **売上収益**
収益物件の賃貸料収入が増加したため、売上収益1.3億円、前期比+0.3億円(+36.4%)の増収
- **セグメント損益 +0.3億円**
売上収益の増加 +0.3

	(億円)		
	2022年3月末	2022年6月末	前期末比
流動資産	172.3	164.4	△7.9
固定資産	192.1	190.4	△1.7
資産合計	364.4	354.8	△9.6
流動負債	42.8	38.1	△4.6
固定負債	68.1	68.4	+0.4
負債合計	110.8	106.6	△4.2
純資産	253.6	248.2	△5.4
負債・純資産合計	364.4	354.8	△9.6

主な増減要因

● 流動資産 △7.9億円

現金及び預金	△ 2.7
売掛金	△14.0
商品及び製品	+ 2.0
仕掛品	+ 2.2
原材料及び貯蔵品	+ 3.9 等

● 固定資産 △1.7億円

有形固定資産	△ 0.5
無形固定資産	△ 1.0
投資その他の資産	△ 0.2

● 流動負債 △4.6億円

支払手形及び買掛金	△ 1.7
賞与引当金	△ 2.6 等

● 固定負債 +0.4億円

退職給付に係る負債	+ 0.7 等
-----------	---------

● 純資産 △5.4億円

利益剰余金	△ 6.5
為替換算調整勘定	+ 1.6 等

2

2023年3月期 通期業績予想

現時点においては、2022年5月13日発表の通期業績予想から変更はありません。なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、今後の為替相場の変動や地政学リスクによる原材料価格の上昇、各種資材の調達難等の要因により、予想数値と大きく異なる可能性があります。今後、業績予想に変更が生じた場合には速やかに開示します。

(億円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 業績予想	前年比 (増減率)
売上収益	231.8	237.0	+5.2 (+2.2%)
営業利益	5.0	△4.0	△9.0 (-)
経常利益	5.9	△3.5	△9.4 (-)
親会社株主に帰属 する当期純利益	6.0	△3.5	△9.5 (-)
ROE	2.4%	△1.5%	△3.9%

売上収益

- コロナ禍の収束と経済活動の正常化が期待され、増収を見込む

営業利益
経常利益
当期純利益

- ウクライナ情勢の長期化を受け、原材料価格高騰による原価率悪化を見込む
- 新中期経営計画「REBORN」に基づく構造改革の推進に伴い、将来に向けた一過性の費用負担による営業損失・経常損失・当期純損失計上を見込む

3 トピックス

中期経営計画「REBORN」において成長戦略として定めた「サブスクリプション・ビジネスの強化」「オフィスのDX化推進ビジネスの強化」の方針に基づき、新たなサービス・商品をリリースしております。

2022年6月提供開始

オフィスに必要なネットワーク機器、セキュリティ対策、サポートサービスをオールインワンで提供する、サブスクリプションサービス「IWANTO(イwant)」



最新で安全な環境を

機器やセキュリティの陳腐化・老朽化に新陳代謝の良いネットワークで素早く対応



快適な環境を月額で

ICT環境に必要なあらゆるリソースを必要な時に必要な分だけ月額利用できる



安心の運用サポート

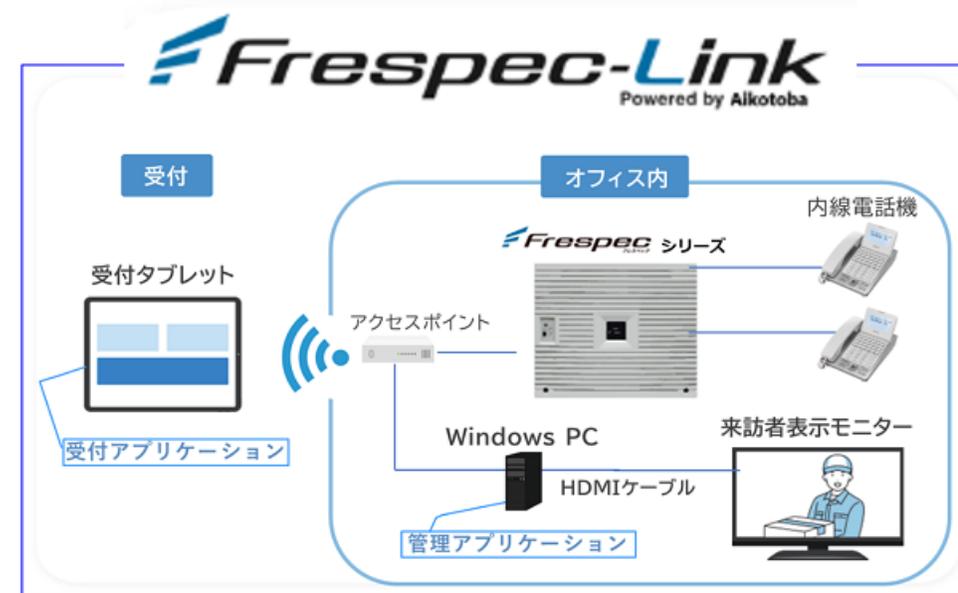
伴走型サポートだから安心導入後もより有効に活用できる



<https://www.iwatsu.co.jp/newsrelease/2022/220610.html>

2022年7月発売

ビジネスホンとタブレット式受付システムの連携でオフィスのDX化を推進する「Frespec-Link powered by Aikotoba」



<https://www.iwatsu.co.jp/newsrelease/2022/220627.html>

将来情報についての注意事項

本資料における当社及び当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しており、主要なものとして以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- 大手顧客先の動向
- 業績の後半偏重
- 競合企業との市場競争の激化
- 取引先の業績悪化等
- 訴訟その他法律的手続き
- 自然災害等
- 情報漏洩
- 感染症拡大
- 調達リスク(国際情勢の急激な変化・調達価格の高騰による供給不足等)
- 景気動向

なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。